

# 被爆建物マップ



## Silent Witnesses Hiroshima's HIBAKU temple

「御同朋の社会をめざす運動」安芸教区委員会 編集

### 被爆建物の保全

広島市は、被爆の痕跡を残す建物を「被爆建物」として登録し、そのリストを公開しています。原爆ドームをはじめ、もとは銀行や学校、病院だった建物などが登録されており、改修されながら現在も利用されています。現存する被爆建物は貴重な存在です。

この冊子では、広島市が「被爆建物」として登録されている本派の寺院のみを紹介しています。

それぞれの寺院が復興の歩みを重ねる中で、当時の面影も次第に変化していきました。その歩みをも含めて、お念仏の聲が響く中、ヒロシマを伝える「もの言わぬ証人」として、今も静かに非戦・平和を願い続けています。

浄土真宗本願寺派  
広島別院・安芸教区

〒730-0801  
広島県広島市中区寺町1-19  
TEL:082-231-0302 FAX:082-292-1186



### 17 専念寺 [本堂・鐘楼]

広島市安佐南区山本七丁目15番17号  
(爆心地から4,990m)



爆風により屋根や天井が破損。被爆後には、広島中央放送局(現在のNHKの前身)が機器の一部を設置し、東京からの全国放送を中継する受信所としての役割も果たしました。

### 18 西楽寺 [本堂]

広島市西区草津本町12番2号  
(爆心地から5,000m)



爆風によって本堂が破損し、天井が落ちました。原爆投下時に止まったままの時計が展示されています。爆心地から一番遠い被爆建物になります。

### 13 西福寺 [本堂・庫裏・山門]

広島市南区仁保二丁目12番20号  
(爆心地から4,620m)



爆風により甚大な被害があり、倒壊、焼失は免れたものの天井等が吹き飛ばされ、内陣・外陣の荘厳類の多くが破損しました。

### 14 光明寺日宇那説教所

広島市南区日宇那町13番6号  
(爆心地から4,960m)



この地域は焼失を免れたが、主として爆風による被害が甚大であったため、当説教所も相当の損傷があったと推測されます。境内には1952(昭和27)年建立の『原爆慰霊碑』があります。

### 15 浄教寺 [本堂・山門・南門・経堂]

広島市西区草津本町1番22号  
(爆心地から4,980m)



南向きの本堂は東側を爆風が直撃し、鬼瓦や屋根の一部が破損し、雨漏りなどの被害をうけました。一部破損した当時の鬼瓦が本堂前に展示してあります。

### 16 教専寺 [本堂・経蔵]

広島市西区草津本町15番14号  
(爆心地から4,990m)



爆風によって破れた板壁がそのまま残されています。経蔵も原爆にあいましたが修復工事がなされ、左官職人さんの手による「鏝絵(こてえ)」が施されています。

### 9 本浦説教所

広島市南区東本浦町20番  
(爆心地から3,950m)



爆風により屋根の形だけがかるうじて残りました。戦後、お堂は立て直されました。桜の木は苗の時に被爆しましたが樹皮(表皮)がかるうじて残り現在でも花を咲かせます。現在「本浦町」が管理しています。

### 10 覚法寺 [本堂・庫裏]

広島市東区矢賀二丁目3番13号  
(爆心地から3,960m)



隣接する矢賀山に守られたため、覚法寺の被害は限定的なものです。それでも山並みを越えた爆風とその吹き戻しによって本堂は歪み、現在に至ります。

### 11 蓮光寺 [門・観音堂]

広島市安佐南区長東二丁目1番44号  
(爆心地から4,020m)



被爆時の熱光線は凄まじく、山門の前を歩いていた人のごもり傘に火がついたと伝えられています。また、火傷した多くの人たちが山門をくぐり本堂や境内に避難されました。

### 12 千暁寺 [本堂]

広島市南区宇品海岸二丁目3番1号  
(爆心地から4,310m)



爆風で屋根が浮き上がり、東に傾いた本堂は1985(昭和60)年修復されました。被災者の救護、また戦時中は宗派を超えて外地戦死者の合同葬が営まれました。

### 5 善法寺 [本堂]

広島市西区己斐本町三丁目10番8号  
(爆心地から2,740m)



本堂は大きな被害を受け、天井は落ち、瓦やガラスが飛散しました。東方向から爆風を受けた本堂は、2009(平成21)年の修復工事まで西方向に傾いていました。被爆した銀杏と桜の古木は、今も境内にたたずんでいます。

### 6 蓮照寺 [本堂]

広島市西区己斐中二丁目20番24号  
(爆心地から2,750m)



強烈な爆風で本堂は大きな被害を受け、年月とともに傷みも進みました。2006(平成18)年に門信徒や地域の方々の懇志、広島市の被爆建物保存事業助成により保存工事を実施。駐車場に「被爆鬼瓦」を展示しています。

### 7 光西寺 [本堂]

広島市西区己斐中二丁目23番3号  
(爆心地から2,930m)



強烈な爆風で本堂や鐘楼などが大きな被害を受け、1967(昭和42)年には軍に供出し失われていた梵鐘を再鋳、鐘楼も修復されました。2005(平成17)年には地域の善意と広島市の助成により本堂屋根が修理されました。

### 8 海宝寺 [山門]

広島市中区江波南一丁目11番12号  
(爆心地から3,470m)



築112年になる木造の山門は爆風を受けましたが現在まで歴史を刻んでいます。本堂は戦後39年目に再建。1957(昭和32)年建立、26年後に再建された戦没者慰霊碑には、日華事変から終戦までの江波地区犠牲者319名の名が刻まれています。

### 1 浄光寺 [山門]

広島市南区荒神町2番2号  
(爆心地から2,100m)



本堂と庫裡も爆風により倒壊し、その後発生した火災によりこの地区の建物のほとんどは全壊、焼失しました。しかし、1690(元禄3)年に建てられた山門だけは焼失を免れることができ、焼け野原の中で残りました。

### 2 安楽寺 [本堂]

広島市東区牛田本町一丁目5番29号  
(爆心地から2,190m)



本堂は火災しましたが、大イチョウの木のお蔭で全焼を逃れました。本堂は爆風で大きく傾き、その後ワイヤーで締めて、歪みを矯正して修復しました。爆風でガラスが飛び散りそのあとが柱や梁にのこっています。

### 3 真宗学寮 [講堂・寮舎]

広島市西区南観音二丁目8番15号  
(爆心地から2,620m)



爆風により大きな破損が生じましたが焼失は免れ、救護所として多数の被爆者の治療にあたりました。現在その痕跡を見るのは難しいですが、講堂・寮舎とも建て替えはせず、当時の面影を今に伝えています。

### 4 光徳寺 [納骨堂]

広島市南区皆実町六丁目15番21号  
(爆心地から2,680m)



大正時代に建てられた石造りの納骨堂は、熱線と爆風に耐え、現在も使用されています。被爆当時の扉は銅製でしたが、現在は木製になっています。